平成２７年度学校経営計画に対する自己評価計画書

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1	県工学びのスタンダードやSPH事業を推進する中で、確かな学力の向上を図るとともに、教師の授業力向上に努める。	①	県工学びのスタンダードを活用し、かつＳＰＨ事業にて育む資質・能力の育成を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	県工学びのスタンダードおよびＳＰＨ事業にて育む資質・能力に沿った授業の実践に向け、ねらいを明確化し、学習の定着を実感できる教材や評価を工夫する必要がある。	【満足度指標】 内容や教材が工夫された授業であると生徒自身が実感できることが、授業に対する満足度につながる。	教材や内容がよく工夫された授業であると回答する生徒の割合で判断する。 Ａ　８０％以上 Ｂ　６５％～８０％未満 Ｃ　５０％～６５％未満 Ｄ　５０％未満	Ｃ以下の場合は、教務委員会、各教科等を中心に、目標提示および評価方法などを再検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 （7月、12月）
		②	生徒の主体的な学習を確保し、学習習慣を身につけさせる。	教務課 各教科	家庭学習時間の減少や学習意欲の減退等の課題に対応する必要性が指摘されており、学習に対する意識付けや家庭学習につながる課題の出し方などを検討し、改善することが求められる。	【努力指標】 予習・復習及び資格取得に向た学習等、通常の授業以外の学習時間を確保する。	学校での補習や家庭での学習時間を１日１時間確保できているかどうかで判断する。 Ａ　ほとんど確保できた Ｂ　週に２～３回確保できた Ｃ　週に１回程度確保できた Ｄ　ほとんど確保できなかった	Ａ評価が７０％未満の場合、教務委員会、各教科等を中心に、意識付けの方法や課題の出し方を再検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 （7月、12月）
		③	教師個人及び各教科にて積極的にアクティブラーニングを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。	教務課 全教員	授業力向上に向けて、相互の授業参観および公開授業後の整理会等が行われているが、生徒が「能動的に」参加する授業づくりに視点を絞ることが求められる。	【努力指標】 生徒が「能動的に」参加する授業を目指す公開授業を実施し、相互に授業参観する。	日々の授業においてアクティブラーニングを意識した授業を行っているかどうかで判断する。 Ａ　十分意識している Ｂ　ときどき意識している Ｃ　あまり意識していない Ｄ　ほとんど意識していない	Ａ＋Ｂ評価が８０％未満の場合、再検討する。	教師の自己評価アンケートを実施する。 （7月、12月）
		④	授業の情報化および学力の定着が実感できる授業を目指し、ＩＣＴ機器の活用を促進する。	学習情報課	一昨年度に書画カメラが導入され、若手教員を中心に、活用が進められている。しかし、まだＩＣＴ機器を活用した授業の比率は多くない。ＩＣＴ機器の活用を一層図る必要がある。	【努力指標】 ＩＣＴ機器の活用を促進し、授業におけるＩＣＴ機器の利用する教員数を増やす。	年間に５回以上利用した教師の比率で判断する。 Ａ　８０％以上 Ｂ　６５％～８０％未満 Ｃ　５０％～６５％未満 Ｄ　５０％未満	Ｃ以下の場合は、学習情報課を中心に、ＩＣＴ機器利用に係る研修のあり方を見直す。	教師の自己評価アンケートを実施する。 （7月、12月）
2	県工人間力スタンダードを掲げ、校訓による規範意識やマナーの向上等、将来の職業人としての意識の高い生徒の育成を目指す。	①	校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	卒業後に実社会へ出ていく本校生徒にとっての基本的な生活習慣である挨拶や時間の励行等については常に指導しているところである。将来の社会人としての基本的生活習慣の確立を目指し引き続き取り組む必要がある。	【努力指標】 人間性の溢れた活力ある校風を築くことを目指し、全校生徒が元気で爽やかな挨拶を励行する。	挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 Ａ　９５％以上 Ｂ　８５％～９５％未満 Ｃ　７５％～８５％未満 Ｄ　７５％未満	Ｃ以下の場合は、生徒指導課・学年団を中心に指導の改善を図る。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 （7月、12月）
						【成果指標】 保護者の目からも、学校における挨拶励行、時間厳守等基本的生活習慣の確立に向けた指導の成果が実感できる。	学校において基本的な生活習慣や躾に対する指導ができていると思うかどうかで判断する。 Ａ　十分指導がなされている Ｂ　ほぼ指導がなされている Ｃ　あまり指導がなされていない Ｄ　全く指導がなされていない	Ａ＋Ｂ評価が８０％未満の場合、生徒指導課・学年団を中心に指導の改善を図る。	保護者を対象にアンケート調査を実施する。 （7月、12月）
			周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工モノづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	町中にあって周辺地域に対する理解や協力が必要であり、今後ともボランティア活動等の地域貢献活動を通じた一層の連携強化が求められる。	【努力指標】 ボランティア活動等、地域貢献活動に積極的に参加する意識を育てる。	周辺美化活動(除雪活動を含む)や各学科の特色を活かした地域貢献活動に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％～８０％未満 Ｃ　６０％～７０％未満 Ｄ　６０％未満	Ｃ以下の場合は、活動の意義等についての啓発を図る。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 （12月）
		②	交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	昨年も一昨年に比べ、違反指導件数が４０％以上減少したが、依然年間で１００件に迫る違反指導件数がある。なお一層の減少に向けた全校的取組が求められる。	【努力指標】 石川県警察が発表する月別の違反指導件数の減少を目指す。	違反指導件数減少の割合を目標とする。 Ａ　前年比１０％以上の減少 Ｂ　前年比５％～１０％未満の減少 Ｃ　前年比０％～５％未満の減少 Ｄ　前年比増	Ｄの場合は、生徒指導課を中心に、指導方法を再検討し、全校的な意識の変革を図る。	県警発表の件数で判断する。

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3	就職、進学ともに確かな進路実現を図り、それに向けた資格取得や検定等に意欲的に取り組み、専門分野の技能向上に努める。	①	就職希望者が１００％内定するとともに、第１社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 ３年学年団	昨今の就職希望者増に対応し、各学科に応じた求人数を確保し、企業が求める人材と生徒の資質や特性との一層のずれのないマッチングが求められている。	【成果指標】 就職希望者の１社目受験での内定率をみる。	就職希望者が１社目受験で内定した割合で判断する。 Ａ　９０％以上 Ｂ　８５％～９０％未満 Ｃ　８０％～８５％未満 Ｄ　８０％未満	Ｃ以下の場合は、内容を分析し、次年度の進路指導に反映させる。	年度末に集約し、判断する。
		②	専門分野の技能向上の一環として、課題研究の内容充実を図る。	工業７学科	課題研究は工業教育の柱のひとつであり、各科専門分野に係る学習の集大成として、より充実した取組と成果が求められる。	【成果指標】 県工展における来場者アンケートから、作品に対する評価をみる。	来場者の展示物（課題研究の内容）に対する評価の割合で判断する。 Ａ　とてもよかった Ｂ　よかった Ｃ　ふつう Ｄ　あまりよくなかった	Ａ＋Ｂ評価が７０％未満の場合、取り組みを再検討する。	県工展の来場者を対象にアンケート調査を実施し、判断する。
		③	生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業７学科 教務課	資格取得は専門高校における職業教育の中核となるものである。県工学びのスタンダードを柱に据え、各学科ごとに、より一層資格取得に取り組む必要がある。	【成果指標】 ジュニアマイスター認定者数の状況をみる。	認定者数（特別表彰＋ゴールド＋シルバー）で判断する。 Ａ　６０名以上 Ｂ　５０名～６０名未満 Ｃ　４０名～５０名未満 Ｄ　４０名未満	Ｄの場合は、工業各学科で指導方法や指導内容を再検討する。	年度末に集約し、判断する。
		④	全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業７学科	それぞれの学科に関係する様々な全国大会やコンテスト、各種コンクールがあり、本校から積極的に参加している。大会成績およびコンテスト等の結果は、各学科専門教育のレベルを測る指標の一つと捉える。昨年度は、全国大会での優勝およびコンクールにおける全国入賞があったが、ものづくり大会での成績はやや低迷していた。県大会はもとより、全国で活躍する取り組みが求められる。	【成果指標】 予選の有無やコンテスト等の特色により基準が異なることから、状況による判断基準を設定する。	［地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会］の場合は、大会出場の難易度で判断する。 Ａ　全国大会でベスト１６以上の成績であった Ｂ　全国大会に出場した Ｃ　ブロック大会で入賞した Ｄ　県大会で入賞した ［地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会］の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。 Ａ　全国大会でベスト８以上の成績であった Ｂ　全国大会でベスト１６以上の成績であった Ｃ　全国大会で初戦突破した Ｄ　全国大会に出場した 各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 Ａ　全国レベルのコンテスト等で入賞 Ｂ　全国レベルのコンテスト等で入選 Ｃ　県レベルのコンテスト等で入賞 Ｄ　県レベルのコンテスト等で入選	Ｄの場合は、工業各学科で指導や取り組みの見直しを行う。	年度末に集約し、判断する。
4	部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育む。	①	活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	部活動の加入率は、昨年度は 95.0％であった。部活動は学校における活力の根源であり、学校活性化のための柱として位置付ける。	【努力指標】 部活動への積極的な加入を促進し、加入率をみる。	各学年の部活動の加入率で判断する。 Ａ　９５％以上 Ｂ　９０％～９５％未満 Ｃ　８５％～９０％未満 Ｄ　８５％未満	Ｃ以下の場合は、部活動の在り方について、部活動顧問連絡会で改善策を検討する。	部活動加入状況調査を実施する。 （7月、12月）
					県総体での総合成績は男子が５位男女総合が 14 位であった。県高校総体総合優秀校を目指し、一層の強化が求められる。	【成果指標】 運動部・文化部のそれぞれが、県代表となることを目標に、活動のレベルアップを図る。	県総体の成績等で判断する。（個人・団体あわせて） Ａ　全国大会５部以上出場または総体順位男子２位以内 Ｂ　全国大会３部以上出場または総体順位男子４位以内 Ｃ　全国大会１部以上出場または総体順位男子６位以内 Ｄ　総体順位男子６位以下	Ｄの場合は、部活動活性化に向けた方策を検討する。	年度末に集計し、判断する。
		②	学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	競技大会や県工祭など学校全体の行事や各学科の行う特色ある取り組みなど、多彩な行事が展開され、生徒の活力につながっている。 今後、保護者が実感できるレベルまで更なる充実を図りたい。	【満足度指標】 保護者の目から見た生徒の学校行事に対する満足度をみる。	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。 Ａ　９０％以上 Ｂ　７５％～９０％未満 Ｃ　６０％～７５％未満 Ｄ　６０％未満	Ｃ以下の場合は、次年度の行事について内容を検討する。	保護者を対象にアンケート調査を実施する。 （12月）
		③	歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	歯科治療受診完了率は、健康への意識「早期発見・早期治療」の指標と捉える。今年度も継続して受診生徒の増加を目指す。昨年度は 25.3％(12 月)であった。	【努力指標】 保健だよりなど情報提供により、歯科受診率の推移をみる。	歯科受診済の生徒の割合で判断する。 Ａ　３０％以上 Ｂ　２５％～３０％未満 Ｃ　２０％～２５％未満 Ｄ　２０％未満	Ｄの場合は、学年団や部顧問と協力し、指導の取り組みの見直しを図る。	学期ごと受診結果報告書を集計し、判断する。 （7月、12月）